

【研究論文】

学校図書館における電子書籍の活用に関する調査研究の一考察

古川元視

【要旨】

本研究は、大分市内の小・中学校及び義務教育学校の司書教諭や学校図書館主任86名を対象として、学校図書館における電子書籍の活用について実態調査を実施し、その結果を分析・考察したものである。学校図書館においては、現在のところ、電子書籍がほとんど導入されておらず、校内での話し合いも進んでいない。しかし、司書教諭や学校図書館主任は、導入や授業での活用についての課題はあるものの、授業において活用したいという気持ちは高いことが分かった。また、活用するメリットもある程度理解している。今後は、公立図書館や市町村教育委員会などと連携を図りながら、計画的に学校図書館への電子書籍の導入を進めることが望まれる。

1 はじめに

(1) 大分県の公立図書館における電子図書導入の実態

電子出版制作・流通協議会の「公共図書館電子図書館サービス（電子書籍貸出サービス）実施図書館地区別」¹⁾（2020年4月1日現在）では、大分県は6自治体の公共図書館が電子書籍の貸出を行っており、31.6%と全国3位で高い普及率を誇っており、推進されていることが分かる。

(2) 学校図書館における電子書籍の位置づけ

学校図書館は、小学校・中学校・高等学校に設けられた図書館で、主たる根拠法は学校図書館法である。学校図書館は、読書センターだけではなく、学習・情報センターとしての役割をもつ。「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」²⁾で、学校図書館における図書館資料として、「電子資料」の項目がある。この報告を受けて「学校図書館ガイドライン」³⁾では、図書館資料について、電子資料（CD-ROM、ネットワーク情報資源等）を取り上げている。「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」⁴⁾において、「電子書籍等の情報通信技術を活用した読書も含む」とされた。

(3) 「学校図書館における電子書籍利用環境構築のための実証的研究」⁵⁾が示した結果

○ 児童生徒、教職員の双方ともに、クラウドシステム、専用機のいずれに対しても半数以上

が、読みやすい、使いやすいなどの好印象を持っており、なかでも児童生徒の割合は教職員よりも高かった。児童生徒の今後の電子書籍の意向は、「ぜひ使いたい」「あれば使いたい」が合わせて7割にのぼった。

○ 調査対象校の教職員は、学校図書館への電子書籍を「導入してほしい」が7割を超えた。その一方で、ICT環境の整備やICT機器のトラブル対応とともに、「ICTや電子書籍についての知識・スキル」を課題とする教職員が多い。

2 調査の目的

植村⁵⁾のように、調査校に依頼をして、学校図書館における電子書籍利用について調査したものがある。

そこで、本研究では、大分市内の小・中学校及び義務教育学校の司書教諭や学校図書館主任を対象として、次のようなことについて調査・研究を行うことにした。

(1) 大分市内の小・中学校及び義務教育学校の司書教諭や学校図書館主任を対象として、学校図書館における電子書籍の活用について実態調査を行い、現状と課題を把握する。

(2) 調査を基に、学校図書館における電子書籍の展望を明らかにする。

3 調査の方法

(1) 調査の対象

- ① 大分市内の小・中学校及び義務教育学校の
司書教諭や学校図書館主任 合計86名

(2) 調査問題の実際

調査問題は、4ページのアンケート形式で行い、以下のようなアンケートを作成した。

該当する校種に○を付けてください。 小学校 中学校 義務教育学校 その他 ()

I 各学校の現在の学校図書館の電子書籍の実態

- ① 学校図書館への電子書籍導入については、学校の会議や研修会などにおいて、今までどのくらい話し合ったことがありますか。次のア～オから1つ選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。

ア 5回以上 イ 1～4回程度
ウ 全くない エ 今後、行う予定
オ その他 ()

- ② 電子書籍は、現在、紙の書籍に対して、どのくらいの割合で学校図書館に入れていますか。次のア～エから1つ選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。

ア 3割以上 イ 1～3割
ウ 全く入れていない エ その他 ()

II 電子書籍を導入するメリット

学校図書館に電子書籍を導入するメリットとしては、「時間的にいつでも」「物理的にどこにいても」借りる・返却できるなどが挙げられます。

- ① あなたは、電子書籍のメリットは、どのようなことだと考えますか。次のア～ケから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 「時間的にいつでも」借りる・返却できる イ 「物理的にどこにいても」借りる・返却できる ウ 借りる・返却が容易で確実である エ 督促する必要がない オ 書籍の破損・損失がない カ 検索が容易である キ 保管場所を取らない ク 障害のある子ども

もでも読める
ケ その他 ()

III 電子書籍を導入するに当たっての課題

電子書籍を学校図書館に導入するに当たっては、電子書籍の導入についての知識不足、電子書籍についての導入計画や分担、電子書籍システムの選択、資金などについての課題が挙げられます。

- ① あなたは、電子書籍を導入するに当たって、どのようなことが課題になると考えますか。次のア～タから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 電子書籍の導入についての知識不足
イ 電子書籍についての導入計画や分担
ウ 電子書籍システムの選択 エ 資金についての問題 オ 機器の故障やトラブルへの対応 カ ICTや電子書籍についての教師、子ども共に知識とスキル不足 キ 授業で活用する方法についての教師や学校司書のスキル不足 ク すぐに司書によるレファレンスが出来ないこと ケ 近隣の学校や教育委員会との連携不足 コ 公立図書館との連携不足 サ 教職員の理解不足 シ 保護者の理解不足 ス 端末とネットワークの問題 セ 電子書籍の数の少なさ ソ 導入に当たっての研修カリキュラム不足
タ その他 ()

IV 学校図書館の電子書籍を子どもに読ませる時の課題

学校図書館の電子書籍を子どもに読ませる時の課題としては、電子書籍の使い方のオリエンテーションの必要性、子どもが学校図書館に来館する機会の減少などの課題が挙げられます。

- ① 学校図書館の電子書籍を子どもに読ませる時、あなたはどのような課題があると考えますか。次のア～エから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 電子書籍の使い方のオリエンテーションの必要性 イ 子どもが学校図書館に来館する機会の減少 ウ 子どもの目の疲労 エ その他 ()

V 授業において、学校図書館の電子書籍を使うことのメリット

- ① あなたは、授業において電子書籍を使うメリットは、何だと思えますか。次のア～クから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 1冊の本を同時に多人数で読める
イ 多くの本を読むことができる
ウ 家庭に持ち帰り、多くの本を読むことができる(重くない) エ 調べる方法が多様になる オ 電子書籍なので、信頼性が高い カ 破損や紛失がない
キ 雑誌など、期間を限定して電子書籍を借りることができる
ク その他()

- ② あなたは、どのような授業でどのように活用したいと考えますか。次のア～オから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 国語、理科、社会、図工(美術)などの授業において、同じ本を同時に多人数で借りて読ませたい
イ 調べ学習において、多くの本や資料を、同時に多人数で調べさせたい
ウ 朝の読書の時間に読ませたい
エ 輪読会や読書会などのイベントのために使いたい
オ その他()

VI 授業において、学校図書館の電子書籍を使うことの課題

授業において、学校図書館の電子書籍を使うことの課題は、電子書籍の数が少ない、端末機器などを用意するのが面倒、操作が慣れていないなどが挙げられます。

- ① あなたは、授業において電子書籍を使うことの課題は、何だと思えますか。次のア～クから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 電子書籍の数が少ない イ 端末機器などを用意させるのが面倒である
ウ 研修が必要である エ 教師が操作に慣れていない オ 子どもが操作に慣れていない カ 公共図書館との連携がない
キ 多くの資料を活用することの指導を子どもに行っていない
ク その他()

VII 公立の電子図書館との連携

学校図書館以外にも、子どもが個人的に公立の電子図書館の使用のカードを作ったら、そのカードを使って利用できるような環境が整います。ただし、現在、公立の図書館の電子書籍は、1人が借りたら、同時には借りることができません。また、団体に貸し出すこともできません。

- ① もし、環境が整ったら、あなたは、公立の電子図書館と連携をして、公立の図書館の電子書籍をどのように活用しようと思えますか。次のア～エから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 授業中に、学校図書館にはない本などを借りて読ませたい。
イ 授業中に、学校図書館にはない本などを借りて、調べさせたい。
ウ 朝の読書などで、学校図書館にはない本などを借りて読ませたい。
エ その他()

- ② 公立の電子図書館との連携のメリットは、何だと思えますか。次のア～エから選んでください。また、「その他」の場合は、具体的に記入してください。(複数回答可)

ア 学校図書館にはない本などを借りることができる。
イ 公立図書館にわざわざ行って借りてこなくてよい。
ウ 学校図書館と公立図書館の両方から子どもが本などを借りることができる。
エ その他()

(3) 調査の手順

20分間でペーパーでの回答をする。

(4) 調査の内容

調査については、5つに分けたアンケートにする。

- ① 各学校の現在の学校図書館の電子書籍の実態
- ② 電子書籍を導入するメリット
- ③ 電子書籍を導入するに当たっての課題
- ④ 学校図書館の電子書籍を子どもに読ませる時の課題
- ⑤ 授業において、学校図書館の電子書籍を使うことのメリット
- ⑥ 授業において、学校図書館の電子書籍を使

うことの課題

(5) 調査の時期

令和3年6月

4 学校図書館における電子書籍の活用についての調査・研究アンケートの結果と考察

4.1 各学校の現在の学校図書館の電子書籍の実態の結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

学校図書館への電子書籍の導入の検討について問うた問題である。

回数	割合 (%)
5回以上	0
1～4回程度	2
全くない	96
今後、行う予定	2

学校図書館への電子書籍導入についての話し合いは、ほとんどの学校では全く話し合われていない。学校ではまだまだ紙の本が主流であるためであろうが、少しずつでも話し合う必要がある。

2 問題2の趣旨及び結果と考察

電子書籍が学校図書館でどのくらいの割合、導入されているのかを問うた問題である。

電子書籍の割合	割合 (%)
3割以上	0
1～3割	0
全く入れていない	99
その他	1

現在は、電子書籍を学校図書館に全く入れていない学校がほとんどである。「その他」は、わからないという回答であった。学校図書館の本は、ほとんどは、紙の本である。

4.2 電子書籍を導入するメリットについての結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

電子書籍を学校図書館に導入するメリットについて、どのようなことが考えられるのかを問うた問題である。

メリット	割合 (%)
「時間的にいつでも」借りる・返却できる	79
「物理的にどこにいても」借りる・返却できる	78
借りる・返却が容易で確実である	57
督促する必要がある	37
書籍の破損・損失がない	69
検索が容易である	29
保管場所を取らない	64
障害のある子どもでも読める	40
その他	1

「いつでも」「どこでも」借りる・返却できるということが最大のメリットであると考えられている。また、書籍の破損・損失がないということも高い割合を示している。授業との関連で、検索が容易であることの割合が少なかったのは、残念である。

4.3 電子書籍を導入するに当たっての課題についての結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

電子書籍を導入するに当たっての課題について問うた問題である。

課題	割合 (%)
電子書籍導入についての知識不足	67
電子書籍についての導入計画や分担	53
電子書籍システムの選択	24
資金についての問題	70
機器の故障やトラブルへの対応	50
ITCや電子書籍についての教師、子ども共に知識とスキル不足	57
授業で活用する方法についての教師や学校司書のスキル不足	42
すぐに司書によるレファレンスが出来ないこと	8
近隣の学校や教育委員会との連携不足	3
公立図書館との連携不足	10
教職員の理解不足	27
保護者の理解不足	3

端末とネットワークの問題	33
電子書籍の数の少なさ	12
導入に当たっての研修カリキュラム不足	15

大きな課題は、資金の問題、電子書籍導入についての知識不足、ICTや電子書籍についての教師、子ども共に知識とスキル不足である。

これらは、導入する際に、一番に考えなければならない課題である。市町村教育委員会や市町村内の学校が連携を取りながら解決していく方法がよいと考えられる。

4.4 学校図書館の電子書籍を子どもに読ませる時の課題についての結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

学校図書館の電子書籍を子どもに読ませる時にはどのような課題が考えられるのかを問うた問題である。

課題	割合 (%)
電子書籍の使い方のオリエンテーションの必要性	71
子どもが学校図書館の来館する機会の減少	44
子どもの目の疲労	59
その他	1

一番の課題は、電子書籍の使い方のオリエンテーションであると考えられている。「その他」では、視力不足で活字離れが加速するという記述であった。電子書籍の使い方のオリエンテーションについては、マニュアルを作成すると解決できる課題である。

4.5 授業において、学校図書館の電子書籍を使うことのメリットについての結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

授業において、学校図書館の電子書籍を使うことのメリットを問うた問題である。

メリット	割合 (%)
1冊の本を同時に多人数で読める	71
多くの本を読むことができる	43
家庭に持ち帰り、多くの本を読むことができる(重くない)	44

調べる方法が多様になる	58
電子書籍なので、信頼性が高い	5
破損や紛失がない	53
雑誌など、期間を限定して電子書籍を借りることができる	8
その他	1

授業において、電子書籍を読むことのメリットは、「1冊の本を同時に多人数で読める」「調べる方法が多様になる」「多くの本を学校や家庭で読むことができる」など、授業方法についての意見が多かった。「その他」は、情報機器に転記し、書き込みやメモ書きが簡単になるということであった。

2 問題2の趣旨及び結果と考察

どのような授業で電子書籍を使いたいのかを問うた問題である。

授業	割合 (%)
国語、理科、社会、図工(美術)などの授業において、同じ本を同時に多人数で借りて読ませたい	71
調べ学習において、多くの本や資料を、同時に多人数で調べさせたい	91
朝の読書の時間に読ませたい	22
輪読会や読書会などのイベントのために使いたい	5
その他	1

多かったのは、調べ学習であった。今までは、調べ学習で1人の子どもが本を使っている場合は、同じ本がない限りは、読むことができなかった。しかし、同じ本を同時に、また、多くの本や資料を活用することが可能となる。「その他」は、使い方がわからないので、活用しようと思わないという消極的な意見で、残念な記述であった。

4.6 授業において、学校図書館の電子書籍を使うことの課題についての結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

授業において、学校図書館の電子書籍を使うことの課題について問う問題である。

課題	割合 (%)
電子書籍の数が少ない	44
端末機器などを用意させる のが面倒である	27
研修が必要である	63
教師が操作に慣れていない	58
子どもが操作に慣れていない	33
公共図書館との連携がない	14
多くの資料を活用すること の指導を子どもに行っていない	5
その他	1

課題の多くは、「研修が必要である」「教師が操作に慣れていない」など教師側の課題である。早い時期から、計画的な研修の実施が必要である。

4.7 公立の電子図書館との連携についての結果と考察

1 問題1の趣旨及び結果と考察

公立の電子図書館との連携の在り方を問うた問題である。

連携	割合 (%)
授業中に、学校図書館にはない本などを借りて読ませたい	49
授業中に、学校図書館にはない本などを借りて、調べさせたい	77
朝の読書などで、学校図書館にはない本などを借りて読ませたい	33

「授業中に、学校図書館にはない本を読ませたい、調べさせたい。」という回答が多い。やはり、公立図書館との連携を図り、授業での活用を願っている。

2 問題2の趣旨及び結果と考察

そこで、公立図書館との連携のメリットを問うた。

メリット	割合 (%)
学校図書館にはない本などを借りることができる	71

公立図書館にわざわざ行って借りてこなくてよい	67
学校図書館と公立図書館の両方から子どもが本などを借りることができる	50
その他	1

連携のメリットの項目は、全て高い割合であった。学校図書館の本の冊数には、限りがある。公立図書館との連携が進むと、わざわざ行かなくても多くの本から目的に合った本を児童が手にすることが可能となる。

5 調査から見た今後の展望

学校図書館においては、現在のところ、電子書籍がほとんど導入されておらず、校内での話し合いも進んでいない。しかし、司書教諭や学校図書館主任は、導入や授業での活用についての課題はあるものの、授業において活用したいという気持ちは高いことが分かった。また、活用するメリットもある程度理解している。

今後は、公立図書館や市町村教育委員会などと連携を図りながら、計画的に学校図書館への電子書籍の導入を進めることが望まれる。

6 引用文献

- 1) 電子出版制作・流通協議会「電子図書館（電子書籍貸出サービス）実施図書館」電子出版制作・流通協議会、2021年10月1日
- 2) 学校図書館の整備充実に関する調査研究協議会『これからの学校図書館の整備充実について（報告）』文部科学省、平成28年10月、pp11
- 3) 『学校図書館ガイドライン』文部科学省、平成28年12月
- 4) 『子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）』文部科学省、平成30年4月、pp6
- 5) 植村八潮『学校図書館における電子書籍利用環境構築のための実証的研究』、令和2年3月、pp94

7 参考文献

- 1) 植村八潮『学校図書館における電子書籍の利用モデルの構築報告書』、平成29年3月31日
- 2) 植村八潮「電子書籍が帰る読書と学校図書館」『学校図書館』、2018年7月1日、第813号
- 3) 野口武悟「学校図書館における電子書籍の利用モデルの構築に関する調査研究」『学校図書館』、2018年7月1日、第813号、
- 4) 西巻悦子「アメリカの学校図書館と電子書籍の現況」『学校図書館』、2021年6月1日、第848号、
- 5) 「電子図書館及び電子書籍を活用した子供読書活

動推進に関する実態調査」, 文部科学省, 令和3年3月

- 6) 堀田龍也「これからの時代を想定した教育の情報化と学校図書館への期待」『図書館雑誌2020②』, 2020年12月, vol.114No12
- 7) 植村八潮「学校図書館における電子書籍利用の現状と課題」『コンピュータ&エデュケーション』, 2020, vol48,